

植物ゲノム・遺伝子源解析センター

月例セミナー

とき 令和3年12月24日（金）16時～17時

ところ 農学部 A302 講義室

題目 「カーネーションにおけるPDCA類似物質によるエチレン生成活性の阻害と花弁老化の抑制について」

講師 農学部准教授 小杉 祐介 博士

概略

花弁老化は切り花の観賞価値を損なう要因のひとつである。花器官で生成したエチレンが花弁老化を誘導するカーネーションなどの切り花では、エチレンの生合成・作用を抑制することが観賞期間の改善に有効である。近年、花のエチレン生成を抑制し、花持ち性改善に効果を有する物質としてピリジンジカルボン酸（PDCA）が見いだされた。PDCAにはエチレン生合成系のACC酸化酵素（ACO）の阻害剤としての効果が認められており、その中でも2,5-PDCAは強力にACO活性を阻害する。また、最近になってPDCAと構造の類似した他の物質についても一定の効果がみられることが分かってきた。本セミナーでは、カーネーションにおいて、数種のPDCA類似物質が花弁由来酵素液中のACO活性および花のエチレン生成と花持ち性に対してどのような影響を及ぼすかを比較した演者らによる結果と、PDCA類の切り花に対する効果に関する周辺の研究を合わせて紹介する。

主催：香川大学農学部 植物ゲノム・遺伝子源解析センター
(<http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/phytogene/index.html>)